

目的 前報に引続き 佛教法衣が 国家 民族 気候 風土等により如何に変転し  
定着したかを知る目的で 今回は台湾の法衣について調査した。

方法 1981年訪台し 中国佛教会監事「今 能法師により 佛教儀礼の中の法衣に  
ついて 指導 教示を受けた。又法衣専門者で法衣作成の実態を調査し 作成者より聴取  
り調査を行なった。又現地で購入した法衣についてその構成を調査した。

結果 台湾は島の中央部を横断して北回归線が走り平地は亜熱帯圏である。その影響か  
袈裟はすべて一直仕立である。材質は絹、毛、木綿、化繊、等何れでもよいが、極薄地  
無地、無紋のものに限られる。色は赤、黄、濃茶、黒、で僧の地位、受戒後の年数等によ  
り定まる。台湾佛教は中国福建省の禪宗の影響が大きく、独身、素食を守り飲酒を禁じて  
いる。法衣についてもその影響がある。袈裟は被衣とも呼び 祖衣、大衣、礼佛衣  
縵衣の別があり、25条、9条、7条、5条 に縫製される。又在家受戒会を受けて「居士  
になれば、一般人も縵衣を着用する事を許される。これは仏教倫理を庶民に浸透させる方法  
として袈裟の着用を許可しているものと考える。